



根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2012



☆根知っ子防災MISSIONについて

※よめないじは、おうちのひとからおしえてもらってネ

5月2日と5月11日の2回、防災MISSIONが出されました。

それぞれのMISSIONをクリアするとチャレンジャーカードまたはDMカードがもらえます。

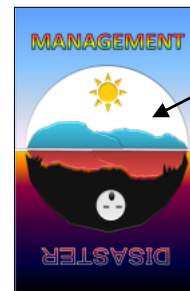
防災戦隊チャレンジャー!



チャレンジャーカード(表)



DMカード(表)



学校から見える  
駒ヶ岳と雨飾山

○1回目は、防災戦隊チャレンジャーにかかわる問題でした。

低学年は、「①それぞれのチャレンジャーは、根知小学校の職員のだれでしょうか？」

中学年は、①+「②ひみつのアイテムはなんでしょう？」

高学年は、①+②+「③他のアイテムを考えましょう！」

前回のチャレンジャー通信をしっかりと見ていたかどうか確認するための問題でしたが・・・。

○2回目は、火災にかかわる問題でした。

低学年は、「①避難するときに、〈お・は・し・も〉の4つのことを守らなければなりません。それぞれの文字〈お〉〈は〉〈し〉〈も〉からはじまる4つのことはなにか？」

中学年は、①+「②自分の家に一番近いところにある消火栓を確認し、家と消火栓のある場所が分かるように地図をかき、お家の人に確認してもらいましょう。」

高学年は、①+②+「③自宅に火災警報機を設置すること(平成23年6月までに)が義務付けられています。A~Dについて、正しいものは○、まちがっているものは×をかきましょう。(※A~Dは省略)」という内容でした。現在集計中です。



今後、地震や津波、豪雨、土砂崩れ、竜巻、雪崩などの自然災害に加え、校内での安全や交通事故について、学校行事や各学年の教科の学習と関連付けてMISSIONが出されます。家族一緒に考え、防災意識と知識を高めてもらいたいと考えています。

ニューチャレンジャー登場!

その8:チャレンジャーグレーのひみつ!



じこ いのち まも  
ミッションは、事故から命を守ること

へんしん まえ あいぜん かんちゆう どこの  
変身する前は安全な環境に整える人

ひみつのアイテムの一つは、誘導ライト



その9:チャレンジャーピンクのひみつ!



ふしんしゃ いのち まも  
ミッションは、不審者から命を守ること!

へんしん まえ  
変身する前は、...ひみつです

ひみつのアイテムの一つは、  
ぼうけん 防犯ブザー!



## 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2012



### ☆第1回地域防災懇談会開催

※よめないじは、おうちのひとからおしえてもらってネ

5月19日（土）の休日授業参観日、学校保健委員会（テーマ：自分のからだは、自分でつくる）に引き続き、保護者と根地振興協議会のメンバー、学校職員を対象に、地域防災懇談会（テーマ：自分たちの地域は、自分たちで守る）を実施しました。

講師には、地域の自主防災組織を中心となって立ち上げ、現在も活動をされている方々をお招きしました。



#### ○丸山明三様（小滝地区自治振興協議会会長）

小滝地区は、地形的な特徴から雨で土石流が発生しやすく、記憶にある7.11水害をはじめ何度も甚大な被害を被ってきた地区です。また、平均年齢が70歳を超え、地区内で消防団を維持することが困難になっています。しかし、災害への備えが大事であるという思いから、平成20年に自主防災組織を立ち上げ、毎年防災訓練（避難所への避難・消火訓練・救急法・炊き出しなど）を行っています。火災警報機の設置率も95%であり、住民は、「自分のことは自分で守る」を合言葉に、また、隣同士声を掛け合いながら生活することを心がけています。

#### ○野本和宏様（防災士・上刈地区防災会会長）

系魚川市の7.11水害や中越地震での復旧作業に携わったことが、自分の住む地区の防災を真剣に考えるきっかけとなった。平成23年2月、区長の「実働的な防災組織がほしい」のつぶやきを聞き、青年会で防災会を立ち上げることを決意しました。その後の3.11・・・6月には防災会発足式、民生委員との懇談会・・・11月に上刈区で初めての防災訓練（地震・津波を想定、避難所設営、消火訓練、けが人の運搬、救急法、炊き出しなど）を実施してきました。24年度も、避難所宿泊体験などの防災訓練を計画しています。

お二人とも自主防災組織を立ち上げようと決意してからの動きがはやく、精力的に地域防災を進められております。お二人の地域・防災への熱い思いが感じられ、とても参考になるお話を聞かせていただきました。

### ☆非常サイレンの日

これまで根知小学校では、年に3～4回の避難訓練を実施して来ましたが、今年度はさらに、毎月「非常サイレンの日」を設け、確実に避難行動ができるように目指します。

「非常サイレンの日」を継続して実施することで、まず「非常サイレンがなったら、その場で活動をやめ、静かに聞くことができる」、さらに「自分で状況を判断し、的確な行動ができる」力を養いたいと考えています。第1回は5月11日の昼休みに行われました。（以下は、職員評価の一部です。）



- ベルの音とともに、体を低くして身を守ろうとしている児童、ハンカチを口に当てて机の下に隠れた児童など「今、自分にできること」をしようとしている姿が見られた。
- 体育館では、低学年と中学年の数人が遊んでいたが、非常サイレンとともに全員が低姿勢になり、放送を最後まで聞いていた。
- 放送中、しゃべろうとした1年男子に対し、中学年女子が「しっ！」というジェスチャーで優しく注意をすることができた。
- ▲ ベルが鳴っている間も、放送の間も給食の片付けをしようとしていた。
- ▲ ピロティで放送が聞こえにくかった児童が、しっかり放送を聞こうと校舎内に移動したが、不安だったのか近くにいた高学年の所にまで移動しようとしていた。

第1回避難訓練（火災想定）は、5月24日（木）に実施しました。

